

令和4年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立上河内西小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和4年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

令和4年4月19日(火)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 理科, 児童質問紙)

中学校 第3学年

4 本校の参加状況

① 国語 19人

② 算数 19人

③ 理科 19人

5 留意事項

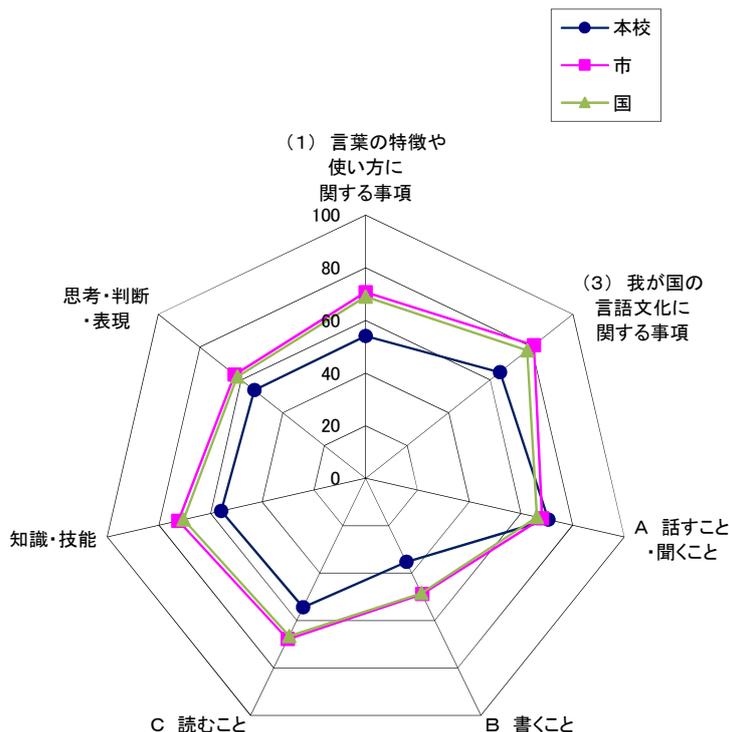
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数、理科の3教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立上河内西小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	54.1	70.7	69.0
	(2) 情報の扱い方に関する事項			
	(3) 我が国の言語文化に関する事項	64.7	81.1	77.9
	A 話すこと・聞くこと	70.6	68.2	66.2
	B 書くこと	35.3	48.9	48.5
	C 読むこと	54.4	67.9	66.6
観点	知識・技能	55.9	72.5	70.5
	思考・判断・表現	53.7	63.2	62.0
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

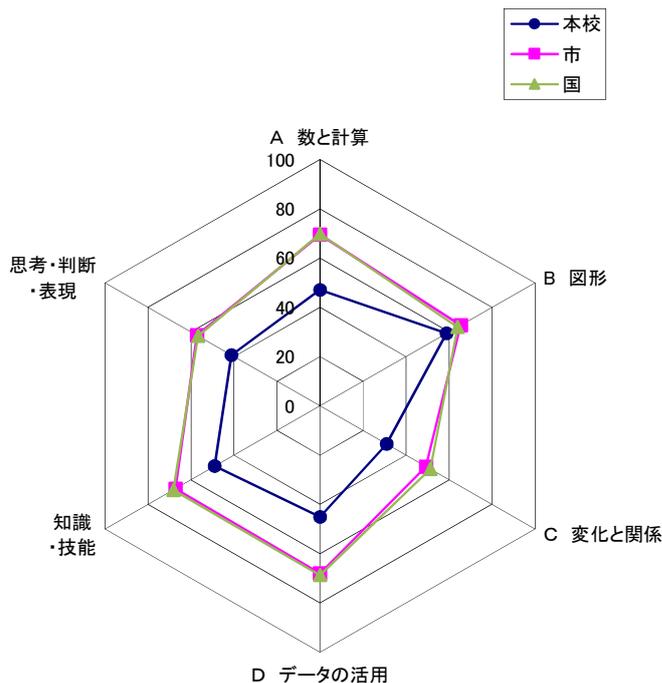
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
(1) 言語の特徴や使い方に関する事項	<p>平均正答率は、市や全国の平均より低い。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●既習の漢字を文章の中で正しく書いたり使ったりすることにつまずく児童が多く見られた。 ●話し合いの中で理由を説明したり、話し言葉と書き言葉の違いを理解し説明する力に課題が見られる。 	<p>○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの</p> <ul style="list-style-type: none"> ・既習の漢字は、国語以外の学習の中でも積極的に使うように指導する。また、主語・述語・修飾語の基本的な文章の構成を再度確認する。 ・自分の考えをもつとともに、自分も持っている情報と知りたい情報とを整理する時間を確保し、友達同士で聞き合う活動を充実させていく。
(3) 我が国の言語文化に関する事項	<p>平均正答率は、市や全国の平均より低い。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●相手の読みやすさを考えて、漢字や仮名の大きさに注意して書く力に課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・文章が長くて分かりにくいときに接続語を使う意義を再確認していく。また、文章を推敲する際に、接続語を使い、文章を分けるよさを実感させていく。 ・相手意識をもち、自分の考えが正しく伝わるように短文作りの活動を充実させる。
A 話すこと・聞くこと	<p>平均正答率は、市や全国の平均より高い。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○話し合いの場面で互いの立場や意図を明確にしなが、自分の考えをまとめることができている。 ●必要なことを質問し、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことを中心をとらえる力に課題が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活の中で、必要なことを記録することを継続的に指導していく。 ・「はじめ」「中」「終わり」などの基本的な構造が視覚的に分かるワークシートを活用し、文章の構造の理解を深めていく。 ・授業の中で、友達の発表を聞きその内容を全体に伝える活動を取り入れたり、読書活動を励行し、日々の活動の中で内容をまとめる活動を取り入れたりする。
B 書くこと	<p>平均正答率は、市や全国の平均より低い。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●自分の考えが明確に伝わるように文章全体の構成や展開を考えることに課題が見られる。 ●文章に対する感想や意見が伝わるように書き表すことにつまずきが見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・文章内容を把握し、条件に合わせて文章を書くとともに筋道の通った文章になるよう、本文に線を引くよう指導していく。また、日記や意見文、紹介文などを書く機会を多く設定する。
C 読むこと	<p>平均正答率は、市や全国の平均より低い。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●登場人物の相互関係や人物像、物語の全体像を捉えることに課題が見られる。 ●本文から必要な文章を抜き出すことが苦手でであり、必要な情報を明らかにする力に課題が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・文章中の大切な言葉や接続語に線を引くことで、文章全体の内容を理解できるようにする。必要な情報を取捨選択したり、整理したりすることで、理解したことをまとめる活動を取り入れていく。

宇都宮市立上河内西小学校第6学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【算数】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A 数と計算	47.1	69.5	69.8
	B 図形	58.8	65.4	64.0
	C 測定			
	C 変化と関係	30.9	49.3	51.3
	D データの活用	45.1	68.0	68.7
観点	知識・技能	49.0	67.3	68.2
	思考・判断・表現	41.2	57.3	56.7
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

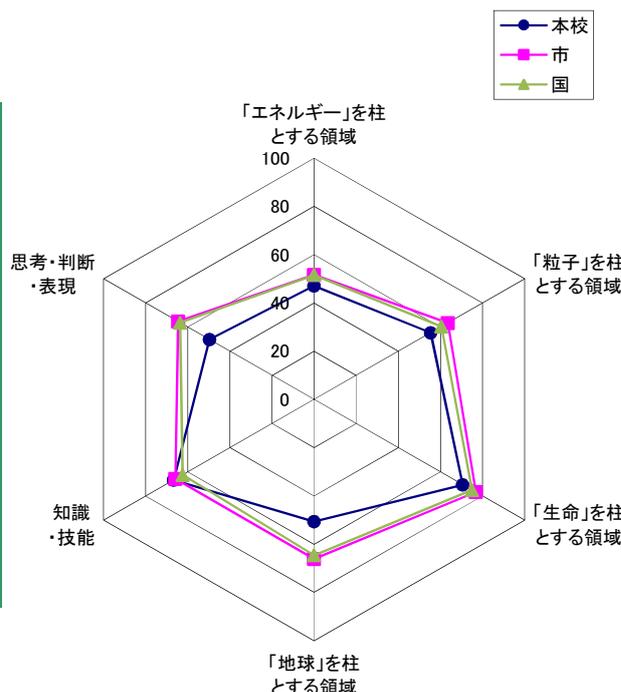
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A 数と計算	<p>平均正答率は、市や国の平均より低い。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●日常生活の問題を解決するために、場面にに応じて数を大きくみたり小さくみたりするなど、目的に合った数の処理の仕方を考えることに課題がある。 ●表から必要な数値を読み取った上で、求め方を記述する問題に課題が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活の具体的な場面に対応させながら、事柄や関係を式に表すことができるようにする。また、問題場面の数量の関係に着目し、切り捨てや四捨五入などの数の処理の仕方考えられるよう復習の時間を設ける。 ・文章問題において、問題場面を数直線などを使い適切に理解させる。計算だけでなく文章を式で表す問題を多く取り入れ定着を図る。
B 図形	<p>平均正答率は、市や国の平均より低い。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●コンピュータを用いて図形を作図する際、正方形のプログラムを基に正三角形のプログラムについて見直すことが難しかった。作図の手順を分解し、結果の見通しを立てるプログラミング的思考の経験が少なく、十分に身に付いていないと考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・図形の意味を理解したり、図形の性質を見つけたり、図形の性質を確かめたりするなど、プログラミングに生かせるような活動を取り入れる。 ・図形を構成する要素に着目して、図形の意味や性質を基に作図の仕方を説明できるよう、友達同士で作図し合う活動を取り入れる。 ・作図の手順を細分化し、1つ1つ手順を確認しながら、苦手とする箇所を把握し筋道を立てて説明できるよう支援する。
C 変化と関係	<p>平均正答率は、市や国の平均より低い。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●日常生活の場面において、数量が変わっても割合は変わらないことがあることの理解が不十分である。 ●比例の関係を用いて、未知の数量の求め方を表現することに課題が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日常の具体的な場面に対応させながら割合について理解させ、定着を図る。 ・基準量と比較量の関係が捉えられるよう、問題に印を付けたり、図や表に表したりするなど、問題解決のためのプロセスを指導する。
D データの活用	<p>平均正答率は、市や国の平均より低い。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●データの傾向を読み取ることが不十分である。 ●目的に応じて分類整理されたデータの特徴を捉え、考察することに課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・表やグラフに表したり、表やグラフからデータの特徴や傾向を読み取ったりすることができるよう、データを見るとき視点や見方・考え方を、授業の中で押さえる。 ・問題に対して、適切な数値を確実に読み取れるよう、何のために、どんなデータが必要なのか、目的に応じてデータを活用するための見方・考え方を指導する。

宇都宮市立上河内西小学校第6学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【理科】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	「エネルギー」を柱とする領域	47.1	51.7	51.6
	「粒子」を柱とする領域	55.3	63.5	60.4
	「生命」を柱とする領域	70.6	76.8	75.0
	「地球」を柱とする領域	50.6	66.1	64.6
観点	知識・技能	66.7	65.9	62.5
	思考・判断・表現	49.7	64.6	63.7
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
「エネルギー」を柱とする領域	<p>平均正答率は、市や全国の平均より低い。</p> <p>○光の性質を基に、日光は直進することはよく理解できている。日光の実験をしたことで光の性質の理解が深まったと考えられる。</p> <p>●日光の実験の過程や得られた結果を適切に記録することや実験方法を改善したりすること、実験結果を問題の視点で分析したりして自分の考えをもつことについて、課題が見られる。</p>	<p>・問題意識を高め、見通しをもった問題解決に取り組む必要がある。そのため、実験の必要性を実感する話し合いや実験前の予想、実験後のデータや観察等の結果を基に考察するサイクルを定着させ、理科における見方・考え方を身に付けさせる。</p> <p>・実験の考察をする際は、予想を見直し、問題に対するまともを検討したり改善したりする活動を取り入れる。</p> <p>・実験の結果を予想したり、実験後の考察をしたりするときは、授業で学んだ言葉を用いて書くことを習慣付ける。</p>
「粒子」を柱とする領域	<p>平均正答率は、市や全国の平均より低い。</p> <p>○メスシリンダーという器具の名称と正しい扱い方についてよく理解できている。メスシリンダーを使用する実験を実施したことで、名称や器具の操作等の理解が深まったと考えられる。</p> <p>●水溶液の凍り方をまとめたり新たな問題を見いだしたりすることに課題が見られる。</p>	<p>・器具の名称を覚えたり、それらを使用する実験を取り入れられたりして、正しく器具や機器の操作を身に付けられるようにする。</p> <p>・自分の予想と観察や実験で得た結果を基に、結論をまとめる活動の時間を十分とる。その際、友達の考えた結論と比較検討することで、多面的に考えられるようにする。</p> <p>・授業で学んだ言葉を用いてまとめるように指導する。</p>
「生命」を柱とする領域	<p>平均正答率は、市や全国の平均より低い。</p> <p>○表の視点で資料を分析し、カブトムシの特徴を解釈して二次元の表に位置付けることができている。児童は、身の回りの生物を探したり飼育したりする中で、生き物の様子や周辺環境、成長の過程や体のつくりを観察しており、日常的な観察が理解を深めていると考えられる。</p> <p>●ナナホシテントウムシの観察で見いだされた問題について、解決するための道筋を考えることに課題が見られる。</p> <p>●昆虫の体のつくりについての理解が不十分である。</p>	<p>・児童が問題を見いだせるような単元の導入を展開する。</p> <p>・問題を的確に把握し予想や仮説を立てた後に、友達同士で意見交換をするようにする。それを基に、問題解決方法を考えさせる。</p> <p>・観察により集めた情報と友達の記録を参考にして、問題を解決するために必要な情報かを考える時間をとる。</p> <p>・友達と記録を比較したり意見を交換したりしやすくなるよう、観察を整理し、正しく記録するよう指導する。</p> <p>・昆虫を観察する際には、体のつくりのどこに着目するとよいかなど、視点をもたせる。</p>
「地球」を柱とする領域	<p>平均正答率は、市や全国の平均より低い。</p> <p>●冬の天気と気温の変化の観察で得られた結果を、問題の視点や結果から言えることの視点で分析して解釈し、自分の考えをもつことに課題が見られる。</p> <p>●夜の気温の変化について、予想を確かめる場合に得られる結果を見通して問題を解決するまでの道筋を構想することに課題が見られる。</p>	<p>・既習内容を基に、児童が問題を見いだすことができる導入を計画する。</p> <p>・ICT機器の活用を充実させ、視覚的に理解できるようにする。</p> <p>・実験や観察したことを既習の内容や生活経験と関連付けて、結論を導き出す学習過程を実践する。</p> <p>・どの児童も自分の考えが必ずもてるように、段階的にいくつかの選択肢から選ぶような支援を行う。</p> <p>・児童が問題解決までの道筋をもてるように、一律に同じ実験をするのではなく、児童一人一人が仮説検証する学習計画を児童とともに設定する。</p>

宇都宮市立上河内西小学校 第6学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか」「毎日、同じくらいの時刻に起きていますか」という設問に対して、肯定的な回答をした児童がそれぞれ88.9%、94.5%と、どちらも市や国の割合を大きく上回っている。基本的な生活習慣が身に付いていると考えられる。

○「将来の夢や目標を持っていますか」という設問に対して、「持っている」と回答した割合は72.2%と、市や国の割合を上回っている。今後のキャリア教育で、自己の目標の実現につなげ、希望を持ち続けられるように、アドバイスや支援を行っていく。

●平日にどれくらい読書をしているかを問う質問で、最も多かった回答が「10分より少ない」だった。司書と連携し、児童にとって魅力ある本の紹介や、読み聞かせに取り組んでいきたい。

●「算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つ」と考えている児童は100%だが、「授業の内容はよく分かる」と回答した児童は55.6%だった。学習内容がより定着するよう、習熟度別学習を継続しながら指導方法を工夫していく。

宇都宮市立上河内西小学校（第6学年） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
家庭学習の習慣化に向けた指導の工夫	今年度も、年度初めの懇談会で、家庭教育の重要性を学習指導主任より話し、家庭学習強化週間を年2回実施することの協力を依頼している。	家庭学習については、8割弱の児童が学年でめやすとしている1時間よりも長く実施できている。これは、市・国の平均よりも高い。「自分で計画を立てて取り組んでいるか」については、7割の児童が肯定的な回答をしている。家庭での学習習慣が定着してきているので、さらに学びを自分のものとして捉えられるような学習方法を身に付けさせたい。
毎時間、各授業での振り返りとテストの振り返りを実施	主体的に学習に取り組む態度を育てるために、授業のねらいに沿った振り返りの視点を基に振り返りを書く活動を積み重ねた。テストにおいても、分析をさせることで、次につなげられるようにしてきた。	振り返りを次に学習につなげていると回答している児童は、6割であった。毎時間の授業の振り返りやテストの振り返りを通して、習慣化されてきたが、何のためにするのかの意識が低い。振り返りの視点をもたせるとともに、振り返りが次の学習につながるような単元計画を作成していく。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
国語の「書くこと」の領域で市や国より低い。文章全体の構成や書き表し方に着目して、文や文章を整えることに課題が見られる。	書く視点の明確化を図るとともに、推敲活動を取り入れる。	文章全体を見たときに、内容や表現に一貫性があるかなど、学年に応じた指導事項の視点を事前に児童に示す。推敲活動が次の学習に生かされるようカリキュラムマネジメントを行う。
算数の「データの活用」の領域で市や国より低い。文章から集めた情報を分類・関係付けること、グラフや表から変化を読み取ることに課題が見られる。	児童の興味・関心に合わせた目的を設定し、それに応じたデータ収集と分類整理の活動を取り入れる。	身の回りの事象を取り上げ、統計的な問題解決の方法で考察し、目的に応じてデータを収集したり適切な手法を選択したりすることができるようにする。